

古代日本と朝鮮の硯

千田剛道(奈良文化財研究所名誉研究員)

遺跡から出土した硯をとりあげ、朝鮮との関わりを考える。古代の硯では、7、8世紀代の獣脚硯、滴足硯などの陶硯について、使用者、製作地をめぐる諸問題を考えたい。さらに、付論として、興福寺一乗院跡出土の朝鮮時代石硯について、日本への流入をめぐる、朝鮮通信使との関連におよんでみたい。

I 硯とは

辞書にみる「硯」

- 1)『説文解字』
- 2)『和名類聚抄』
- 3)『字統』(白川静、1984年、平凡社)

II 弥生の硯

- 1)田和山遺跡 (島根・松江市)
- 2)三雲番上遺跡 (福岡・糸島市)
- 3)葉師ノ上遺跡 (福岡・筑前町)

(参考)楽浪の硯

- 1)彩篋塚 (南井里 116号墳)
- 2)石巖里 9号墳 (円形石硯)
- 3)王盱墓 (石巖里 205号墳)

III 獣脚硯・滴足硯

古墳

- | | |
|--------------------|---------|
| 1)御坊山 3号墳 (奈良・斑鳩町) | 三彩有蓋滴足硯 |
| 2)アカハゲ古墳 (大阪・河南町) | 緑有蓋獣脚硯 |

都城とその周辺

- | | |
|---------------------|--------|
| 1)石神遺跡 (奈良・明日香村) | 須恵質獣脚硯 |
| 2)藤原京 (奈良・橿原市) | 緑釉獣脚硯 |
| 3)藤原京(下ツ道側溝、奈良・橿原市) | 二彩滴足硯 |

寺院

- | | |
|------------------|--------|
| 1)法隆寺 A (奈良・斑鳩町) | 緑釉獣脚硯 |
| 2)法隆寺 B (奈良・斑鳩町) | 須恵質獣脚硯 |

その他

- | | |
|-------------------|--------|
| 1)大宰府 (福岡・太宰府市) | 須恵質滴足硯 |
| 2)荒木、遺跡 (福岡・久留米市) | 須恵質獣脚硯 |
| 3)御供田遺跡 (福岡・春日市) | 須恵質獣脚硯 |

使用者、製作地をめぐる近年の研究

IV (付論) 興福寺一乗院跡出土の朝鮮硯

1)出土遺跡・遺構

一乗院は 970 年創立、永く門跡寺院として存続
寛永 19 年(1642)火災の宸殿前面の廃棄土坑から多量の
焼け瓦に混じって出土(2000 年調査)。

2)渭原産日月硯

渭原：慈江道(もと平安北道)

3)類例

一乗院のほか、京都、大阪、堺で出土

4)朝鮮通信使との関わりは？

①硯の描かれている朝鮮時代の絵画

金弘道筆 書堂図、自画像

②硯の描かれている朝鮮通信使関係の絵画

葛飾北斎筆 「東海道五十三次 由井」

名古屋・性高院での詩文贈答の場面 『尾張名所図会』

参考文献(発行順)

- 關野貞他 1925 年、『楽浪郡時代/遺蹟(古蹟調査報告第四冊)、朝鮮総督府
小泉顯夫ほか、1934 年、『楽浪彩篋塚』(古蹟調査報告第一)、朝鮮古蹟研究会
内藤政恒、1944 年、『本邦古硯考』、養徳社
奈良国立文化財研究所飛鳥資料館、1979 年、『飛鳥時代の古墳』(飛鳥資料館図録第 6 冊、
のち、1981 年、同朋舎からも出版)
石井則孝、1985 年、『陶硯』、ニュー・サイエンス社
권도홍、1989 年、『머루』、대원사
千田剛道、1995 年、『獣脚硯に見る百濟・新羅と日本』『文化財論叢 II』(奈良国立文化財
研究所創立 40 周年記念論文集)、同朋舎出版
辛基秀・仲尾宏編、2000 年、『図説・朝鮮通信使の旅』、明石書店
奈良文化財研究所、2001 年、『一乗院の調査—第 317・321 次—』『奈良文化財紀要 2001』